

令和 2 年 4 月 23 日

音楽の力・・・（その 2）



前回の最後に、モーツァルトのピアノコンチェルトのことを書きました。

どうですか、少し気になって聴いてみた方はいらっしゃるでしょうか？

臨時休業が続いています。学校からの教材がそろそろ届いていることと思いますが、学習の合間に少しこんな音楽にも耳を傾けてみてください。

例えば、K.595のコンチェルト（Kはケツヘル番号といい、大きな数になるほど彼の晩年の作品になります）。特に第 2 楽章 ラルゲット。この楽章の終わりの頃に、最初弦楽器、続いて木管楽器、最後にピアノと、とても優雅で感傷的なフレーズが連続します。楽譜が掲載できないので拙い表現で申し訳ないのですが一度聴いてみてください。

この作品は、モーツァルトが亡くなった1791年のもの。彼の生活状況は決して恵まれたものではなかったようです。そのような状況から紡ぎ出された音楽とは思えないほど、澄み切った青空のような感触があります。

ところでNHKのニュースを見ていたら、劇作家の平田オリザさんが「ドイツの文化大臣は今回のコロナウィルスに関連し、「アーティストは生命維持に必要」と考えている」旨の話をされていました。第二次世界大戦中も、場所を変えながらずっと演奏を続けてきたドイツの代表的なオーケストラであるベルリンフィルは、今でも無観客での演奏会を続け、その模様をデジタル配信しています。

前回の村上春樹さんの話題とも関連しますが、このような状況の中だからこそ、音楽をはじめとする芸術が我々に与えてくれる力、幸せをかみしめたいと思います。生徒の皆さん、ぜひ宝物になるような作品をこの機会に見つけてください。それは、ずっとあなたを支えてくれるはずです。